



支部報バックナンバー電子化に伴うお願い

大学図書館問題研究会京都支部では、京都支部報を、電子化の上、京都支部ウェブサイトにて公開することを予定しております。

つきましては、これまで京都支部報に掲載された著作の著作権者の皆さまにおかれましては、京都支部ウェブサイトでの公開について、ご異議やご質問等がありましたら、平成23年5月31日までに、末尾の連絡先までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

なお、京都支部ウェブサイトでの公開にあたっては、著作権の委譲は発生しません。よって、公開後においても、著作権者からご指示があった場合は、当該論文を速やかに京都支部ウェブサイトから削除いたします。

【本件に関する、お問合わせ・ご連絡先】

大学図書館問題研究会京都支部

電子メール：kyoto@daitoken.com

FAX：075-383-3146（桂地球系図書室）

郵送先：〒615-8540 京都市西京区京都大学桂C1棟F143号室
桂地球系図書室 坂本拓宛

[目次]

支部報バックナンバー電子化に伴うお願い	…	1
小特集：kublibrarians vs Lifo	…	2
決戦！京都冬の陣～kulifo 参加報告～	八木澤 ちひろ	… 2
「ku-librarians vs Lifo」こぼれ話	光森 奈美子	… 5
「第11回図書館総合展 L-1 グランプリ」参加報告	…	5
図書館総合展 L-1 グランプリに参加して	長坂 和茂	… 5
移転はつらいよ～経験と失敗より	野間口 真裕	… 6
原稿執筆と生みの苦しみ	池田 貴儀	… 8

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

小特集：ku-librarians vs Lifo

「ku-librarians vs Lifo」は、2010年12月11日(土)～12日(日)にかけて行われた、「京都大学図書系職員勉強会(仮称)」(ku-librarians, <http://kulibrarians.g.hatena.ne.jp/>)と、図書館員の部活動「Lifo」(<http://www.lifo-club.org/>)によるコラボレーションイベントです(通称「kulifo」)。2日間を通じてku-librarians(15名)とLifo(19名)の計34名が京都に集い交流を深めました。

日 時：2010年12月11日(土)～12日(日)

場 所：キャンパスプラザ京都

内 容：kulifo vs / night / tour / tofu という4部構成

<第一部> 「vs」 (1日目) 午後：ku-librarians vs Lifo (グループワーク)

<第二部> 「night」 (1日目) 夜：懇親会(本の交換会など)

<第三部> 「tour」 (2日目) 午前：国際日本文化研究センター図書館見学
午後：嵐山散策

<第四部> 「tofu」 (2日目) お昼：湯豆腐



小特集：ku-librarians vs Lifo

決戦！京都冬の陣～kulifo 参加報告～

八木澤 ちひろ

「今回はこれくらいにしておいてやる。次は首を洗って待っている」と、Lifo ナガヤさんは別に言いませんでしたが、先だって開催されたku-librarians vs Lifoでは、ku-librariansが歴史的(?)な勝利をおさめました。今回はku側で参加しておりました、私ヤギサワが当日を振り返って感想を述べたいと思います。

年の暮れがひたひたと忍び寄る、師走もなかば。およそ「京都の冬の日」と聞いて、「暖かい」と思い浮かべる人はそうそういないと思いますが、この日京都駅附近の一角はたしかに暖かい、むしろ熱い空気に包まれていました。なにしろ「ku vs Lifo」決戦の当日です。

“and”でも“with”でもなく、“vs”である、と、これだけは話が持ち上がった当初から決まっていたらしいです。とりあえず果たし状を出してしまったミツモリさんは慧眼ですね。一見、体育会系とは縁遠くみえて実際に縁遠い（※異論受け付けます）図書館関係者ですが、「対決」となれば、なけなしのメンツがかかるというもの。おかげで、なんの戦いなのかまったくわからないにも関わらず、北から南からかなりの人数が集まり、会場は終始熱気と活気に溢れておりました。

お土産にいただいたレンコンどら焼きをほおぼりながら、和気藹々と“vs”は始まりました。まずはじめのアイスブレイクは「図書館用語しりとり」。このときほど「家の本棚で眠っている図書館ハンドブックがあれば！」と思ったことはありません。まわりの方がヒントを出してくれながらすすんだので、予想よりもテンポよく続きましたが、これが協力なしだと、たぶん悲惨な事態になっていたでしょう…。

次に、Lifo（ナガヤさん）と ku-librarians（ハヤシさん）、それぞれの自己紹介がありました。「もう Lifo でいいんじゃない」という、ハヤシさんの色んなものを根底から覆す発言もありつつ、Lifo と ku の沿革についての解説は、それぞれの特性が表れているへんわかりやすかったです。「部活動」のコンセプトのとおり、若さと柔軟性のある Lifo。10 年以上の継続力と、層の厚みのある ku。問題点も提示しながら、「発足時からこれまで」を体系的に確認できるプレゼンテーションでした。それにしても、Lifo の企画力と軽いフットワークもさることながら、グッズ展開のセンスのよさがすばらしいと思います。

さて、いよいよ“vs”本番のプレゼン対決です。Lifo と ku がそれぞれ数人ずつ 3 チームにわかれ、以下の 3 つのテーマについてグループワークとプレゼンを行いました。個別の内容を追っていくととても字数が足りないの、記憶に残った一言で紹介してみます。これだけみても、いかに面白い時間だったか思いやることのできるでしょう。

1 「理想の検索システム」

- ・ 【Li:search】(Lifo) 執事（個人アドバイザー）のある検索システム
- ・ 【L-tunes】(ku) i-Tunes のように使える図書館システム

2 「結局図書館ってどんな服装で勤務したらいいの？」

- ・ 【サンタ♥】(Lifo) 図書館員のエプロンをかわいい赤に！
- ・ 【KGC】(ku) ファッションショー形式で理想の図書館員のブランド紹介

3 「図書館採用時の挨拶」

- ・ 【図書館クエスト 2】(Lifo) ku の幹事になって L-1 で優勝して図書館首都を京都に
- ・ 【L-i リベンジ】(ku) そんな L-1 で大丈夫か

グループワークはプレゼン準備を含め約 1 時間半、プレゼンは質疑応答含め 5 分間、という、当日お題をきく参加者にとっては、まさに怒涛のような対決。

結果、「ネーミング大賞！【KGC】」「プレゼン大賞！【KGC】」「みんな仲良しで賞！【KGC】」が ku チーム、「発想がすばらしいで賞！【Li:search】」「明日から活かせるで賞！【サンタ♥】」が Lifo チーム、審査員特別賞の「かわいかったで賞！【L-tunes】」が ku チームと大接戦の末、ku に軍配があがりました。

「首を洗って待っている」ではありませんが、「数年後にリベンジしたいです」とのナガヤさんのお言葉で、長くて短い“vs”は幕を閉じました。

その後、お互いの健闘をたたえあいながら、懇親会の“night”へと河岸を移して本の交換会でクリスマス気分を味わい、そして翌日には日文研見学“tour”、嵐山湯豆腐の会“tofu”と、盛りだくさんの 2 日間でした。

イベントを通して印象的だったのが、幹事の方々が実に楽しそうに動いていたことです。参加者も幹事も一緒になって盛り上がったことが、この kulifo のコラボ企画の一番の成功ポイントだったのではないのでしょうか。

小特集 : ku-librarians vs Lifo

「ku-librarians vs Lifo」こぼれ話

光森 奈美子

「ku-librarians vs Lifo」は、2010年12月11日(土)～12日(日)にかけて行われた、「京都大学図書系職員勉強会(仮称)」(ku-librarians)と、図書館員の部活動「Lifo」によるコラボレーションイベントです。タイトルにある"vs"からも分かるとおり、ku-librariansとLifoの対決イベントとして実施され、30人以上の参加がありました。実際の対決内容は、参加者の1人であるku-librarians八木澤さんに紹介をお願いすることにして、イベント実行委員会の私からは、このような企画が持ち上がった経緯や、ちょっとした裏話などをお話してみようと思います。

このイベントの実行委員会は、ku-librariansから2人、Lifoから私を含めた3人の計5人で構成されています。当日までの準備はこの5人で進めてきました。最初のきっかけは、開催から1年以上前に、ku-librarians江上さんが「一緒に何かやりましょうよ」と声をかけてくださったことです。それから何度かku-librariansの皆さんと顔を合わせる機会があったのですが、なぜか話がそれ以上発展せず、気が付くと2010年を迎え、桜の季節も過ぎ、梅雨が目の前に迫っていました。「このままではいつまでたっても実現しない!」と、半ば冗談で(しかし、かなり思い切って)「Lifoからの果たし状」と題したメールをku-librariansへ送ったのが、2010年6月のことです。

ku-librarians側から「よかろう、返り討ちにしてくれる」との返答(※イメージ)を得た後、5人の実行委員会が結成されました。6月に"果たし状"を送り、12月にイベント実施となると、半年間も準備期間があったように見えますが、実際に動き始めたのは10月ごろのことです。決まっていなかったことも多く、例えば、詳細なイベント内容が当日まで隠されていたのも、実は直前まで実行委員会内で悩んでいて内容を公表するタイミングを逃してしまった…という事情によるものです。また、対決企画には付き物の罰ゲームについては何一つ考えておらず、参加者の皆さんがグループワークに頭を悩ませている中、実行委員会は罰ゲームについて議論を交わしていました。結局、その場では結論が出ず、後日行われた反省会でようやく「敗者から勝者へお菓子の差し入れ」ということが決まりました。

今回、会場が京都ということで、Lifo側の参加者が、北は茨城、南は沖縄と全国から集まるのがとても楽しみでした。同時に、遠方から来てくれる参加者の皆さんに楽しんでもらえるだろうかという不安も感じていました。実行委員会として、できるだけ楽しんでもらえるような仕掛けはしたつもりでしたが、こちらが考えていた以上に参加者の皆さんが盛り上げてくださり、色々な意味で面白いイベントになったのではと思います。また、2日間大きなトラブルもなく、無事に終わることができ、全日程が終了した後、ホッと胸を撫で下ろしました。

全国から集まったにも関わらず、結局Lifoが負けてしまいましたが、Lifo長屋さんから数年のうちにリベンジすることも宣言されました。次回は必ず勝って、阿闍梨餅を食

べさせてもらおうと、今から目論んでいます。

みつもり なみこ (kulifo 実行委員会)

「第 11 回図書館総合展 L-1 グランプリ」参加報告

図書館総合展 L-1 グランプリに参加して

長坂 和茂

今年の図書館総合展の 2 日目に行われた L-1 グランプリ。そこで私は出場者として参加するという、なかなかめったに無い機会に恵まれました。今回の記事は L-1 の参加報告ということですが、その内容については Ustream でも公開されているので、特に話すべきこともなにもありません。強いて言えば「まあ面白かった」の 7 文字で十分かと思えます。ですので、代わりとっては何ですが、私が今回の L-1 に参加することになった経緯とその背景などを話したいと思えます。

一番最初のきっかけは、2009 年の図書館総合展が終わって、翌年（つまり、2010 年）の図書館総合展の日程を見ていたときです。よくよく見てみれば、日程は水曜日から金曜日まで。これから、週の真ん中よりは参加しやすいから、来年こそは参加してみよう、と思っていました。なんてことを、忘れかけていた頃、京都府立総合資料館の藤原さんからメールが来たのです。「L-1 に参加しませんか」と。

私と藤原さんのつながりは、京都府図書館情報学学習会（以下、学習会と呼称します）という組織にあります。さらに最初の出会いに遡れば、京都大学の若手の勉強会（以下 Ku-Librarians）にあります。私が就職して最初の Ku-Librarians の勉強会は学習会との合同だったのです。ここで、両者の説明をすると、Ku-Librarians は京都大学の若手図書系職員を中心に構成されていて、毎月、京都大学附属図書館で勉強会を行っています。学習会は主に京都府の図書館員を中心に構成されていて、ほぼ毎月、京都府立医科大学の図書館で勉強会を行っています。ともに 10 年以上の歴史を持つ勉強会です。ただでも勉強会は「続きにくい」と言われる中で、10 年以上続いている勉強会がこれだけ近くに二つもあるというのは驚嘆に値するのではないかと思います。

今回私のチームのうち、4 人までが、この学習会関連で集まったメンバーでした。誘ってくださった藤原さんはこの学習会の幹事の一人です。若林さんはこの会の常連、水野さんもこの勉強会に参加したことがあります。もちろん、私もしばしば参加しています。

さて、ちょうどそのころ、「図書館員で集まって飲む会@大阪」を谷さん達が開催していました。この会は、図書館員や図書館関係者やそうでない人が、図書館や図書館関連のことやそうでないことを肴に呑むという会で、60 人以上の人が集まったものです。この集客力の原動力は、そのテーマのゆるさと、谷さんはじめ主催者の広報努力などが挙げられるかと思えます。

話がそれました。この会を通じて、水野さんがメンバー募集の呼びかけをしたことで、玉置さんがメンバーに加わることになりました。

また、これをきっかけに、学習会と Lifo での合同遠足が実現しました。行き先は大手前大学メディアライブラリー Cell。ちょうど学習会と Lifo の両者がこの図書館を見学したいと考えていたために実現したそうです。Lifo については、私は入っているわけではないですし、きっと同じ号に載っている Lifo vs Ku-Librarians の報告の方に何かしらの言及があると思うので、説明は省略させていただきます。

こうして考えてみると、私達のチーム「りぶやん」の背景にはこれらのいろいろな組織がありました。結果としてはL-1においてりぶやんは芳しい結果を残せませんでした。私達の活動はまだまだ始まったばかりです。関西の図書館界に私達りぶやんが貢献できるようにがんばりたいと思います。

あ、もうひとつ挙げるのを忘れてました。「大学図書館問題研究会 京都支部」。

ながさか かずしげ (京都大学 経済学研究科・経済学部図書室)

移転はつらいよ～経験と失敗より～

野間口 真裕

移転という仕事は大きな図書館にご勤務の方はそう頻繁には経験がないかと思います。私は小さな部局の図書室に配属され、耐震補強工事等で何度か図書室の資料の移転の仕事をさせていただきました。終わった後反省することも多いのですが、今回、支部報でそのことを書いてみるのも面白いという話がでましたので、駄文ではございますが、経験したことや失敗したことをまとめてつらつらと書いてみたいと思います。

～準備編～

引越しが決まると一番気になるのはやはり図書の移動です。通常書架の棚1棚でダンボール2箱になり、移動が何百、何千という箱数になるうえ、移転先では棚のピッチや奥行き、高さなども異なり、これまで積み上げてきた設定が元の木阿弥となります。そのため、事前に図書の分類ごとの幅や、雑誌の1タイトルごとの幅、高さ、大型図書の確認などの調査を行うこととなります。

確認したあとはシミュレーションを行います。どこの棚におくのか、配架するための空きスペースをどれくらいとるのかなど細かい計画が必要です。業者に外注することもできますが、職員の指示ミスや高さ調整などで大幅にずれることもあります。複数回シミュレーションをとると有料になることやシミュレーションと移転作業が切り離せなくなるなど経費からみて難しいこともあります。棚からあふれ出すと、通路に並べたり、床に積んだり、別のスペースを確保したりということになりますので、ここは非常に重要です。

予算確認も必要です。通常、教員・施設・会計・図書を含めた職員のワーキンググループのようなものが生まれ、移転のことが決められますが各々で考え方が異なります。図書は図書で譲れない線を守って、意見を言っていく必要があります。逆にこういう予算が必要ではないですか？とご教示いただけることもあります。

スケジュール調整も大切です。期間が逼迫していると、何かあったとき、調整する時間がなくなり、かといって途中工事が挟まるなどあまりにも移転に長い時間がかかる場合は仮置き場所の準備なども必要となります。業者との打ち合わせや他の部署の連携などスケジュールどおりに進まないことも多いですが、最終はほぼ決まっていますので、逆算して大体でスケジュールを作り、その都度修正していくほうがよいと思います。

工事期間中、資料を仮置きしないといけない場合は空調のきいた部屋でかつ、ダンボールがつぶれないようあまり積み上げないようにしておく必要があります。地べたにダンボールを置くと地面から湿気があがってきて、資料がかびたりすることもあります。温湿度計や除湿機、扇風機を置いたりしておくのもよいかもしれません。

仕様の作成や見積もりあわせなども注意が必要です。一つの業者に仕様の話を聞くと自社に都合のよい見積もりをもってきますし、見積もりの雰囲気や巧みに聞き出そうとする業者もあります。仕様・業者の情報は他の部署からも情報収集してみることも参考になるかもしれません。

引越し先のレイアウトを確認する時は什器の位置だけでなく、LANや電話、電源の位置など、実際現地で確認するぐらいがいいかもしれません。経験では図面にLANと描いてあるのにみても電話だったということもあります。

～実施編～

始めてみると細かい別置を忘れていたなど計算と違ったことや思い違いなど多々起こります。その都度、対応していかないといけないのですが、一番注意することがあります。それは現場の担当者への指示です。移転を担当する業者が図書館のことをわかっている人であればよいのですが、そうでない場合、乱雑な取扱や配架ミスが散見します。そのたびに注意して取扱いをあらためていかないといけません。左から右、上から下に配架されることや請求記号順やアルファベット順、数字順など簡単なものから冠詞をどう扱うのか、Jの部分や統計など今後を想定して大きく幅を取っておく部分の指示など図書館特有なものもあります。いわなくとも、配架を訂正してくれる業者やホコリはらいなどちょっとした清掃をしてくれる業者もあります。検収・検査が終わると業者はそう簡単には来ていただけなくなるので、たくさん人がいるうちに厳しくいっておいたほうが後に楽になると思います。

什器の搬入などが入学試験とバッティングして急遽できなくなるようなこともありますし、重大な施工ミスなどがみつかるともあります。終了までなかなか気が抜けず、細かいチェックが重要になってきます。

～実施後編～

移転が終われば、パソコンのネットワーク変更や地図の変更、書架表示の変更などから、目録の配置場所の変更、利用案内・館内ツアーの変更などさまざまな修正が必要になります。また、各部署への報告、図書館報への執筆・ホームページの修正なども行ないます。実施が終わり数ヶ月たち、細かい部分の修正が終わってから、やっと一息つくことができるかと思えます。

～おわりに～

個人の感想として、今回の文章に書きましたボリュームをみていただくとわかるとおり、移転は実施より準備が大変なように思います。計算どおりうまく配架されたら大成功。うまくいかなければ後から泣くことになります。丁寧な準備が必要だといつも感じます。

移転は日常業務と違い、経験する機会がほとんどないので、いつも新しい問題の連続でした。考え込むことも多く、毎回条件が違ってなかなか大変です。移転後は新しい環境となることを前向きにとらえて、何とか頑張ってこられたかなと思っています。

皆さまもこれから先、耐震補強工事や書庫の横溢による新館への移転などあるかと思いますが、大成功！で終了することを切に祈っております。この文章がその成功に少しでもご参考になりましたら幸いです。

のまぐち まさひろ (京都大学 経済学研究科・経済学部図書室)

原稿執筆と生みの苦しみ

池田 貴儀

いま書いている原稿もそうであるが、原稿を執筆する時にいつも思うのが生みの苦しみである。子を産むときの激しい苦しみのことから転じて、物を作り出したり、新しく事を始めたりするときの苦勞を言うわけであるが、ここには産む瞬間だけではなく、新しい命ができてから外に出てくるまでの長い期間の苦勞も含まれている。

原稿執筆の過程では、まずテーマを決め、次に実際に文章を書き始める前段階で、多くの文献にあたる、内容を読みとる、また新たな発見する等を繰り返す。この作業が容易に行くこともあれば、並々ならぬ時間を消費することもある。なかでも文献調査は、「大学の図書館」(2009年10月号)の巻頭言「恩師の言葉」でも取り上げた恩師から言われた次のような言葉を信条にしているの、さらに苦しい思いをすることになる。

「存在する先攻研究は全部追え。何十年前だろうが、国内になかろうが、どこかに存在していることがわかったなら、必ず見つけてあたれ。そのためにどれだけの時間、費用、労力がかかろうが、そんなことは関係ない。それが研究だ。」

あたりまえのことにすぎないのだが、文献調査一つをとっても原稿執筆の上では楽をすることは許されないことを思い起こさせてくれる。

原稿執筆のどの過程においても感じる生みの苦しみであるが、一番の苦しきは、自分が考えたストーリーに基づいて文章を書いているときである。思うように文章がまとまらないこともあるし、書いている途中で別の事実が見つかることや見落としていた文献に気づくこともある。これらの紆余曲折を経て文章を書きあげていく作業は苦しい道のりである。

また、執筆が行き詰まったときや、締め切りが迫ってくると、原稿を引き受けたことを後悔することもしばしばある。それでも、書きあげた瞬間、最終的に原稿が掲載された雑誌等を手に取ったときの感激はひとしおである。この原稿を終えたときの何とも言えない感覚があるからこそ、原稿書きはやめられないのかもしれない。これまで「感情労働」「灰色文献」などいくつかのテーマで原稿を書いて来ているが、いずれはこれらのテーマを掘り下げていくという、育ての苦しみを味わう日がやってくるのかもしれない。

いけだ きよし (独立行政法人日本原子力研究開発機構 研究技術情報部)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2010年度(大図研会計年度2010.07 - 2011.06)に入っておりますので、2010年度の会費の納入をお願い致します。また、2009年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000 (大図研会費: ¥5,000 + 京都支部会費: ¥2,000) です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (kyoto@daitoken.com) まで。